

講義名	対)日本語総合A (K54) 【留学生科目】		
担当教員	小野 勝		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**  
 大学生を送るための基礎的な日本語能力を身につける。この授業では、日本語の文法項目について、基本的なものから日本語能力試験上級レベルのものに至るまで、幅広く意味や使い方を学ぶ。また、文法知識を学ぶだけではなく、実際の日本語でのコミュニケーションや作文でどのように使われるかを考え、様々な課題に取り組むことを通して、実際の生活の場面で応用できるようになることを目指す。

**到達目標**  
 授業で扱った文法項目の理解だけでなく、運用能力を身につけ、日常生活でのコミュニケーションや大学での学習に対応できるようになる。様々な場面において、日本語で自分の意見を伝えたり、課題を解決したりすることができるようになる。

**提出課題**  
 毎回、授業のテーマに即したワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**  
 ワークシート、宿題、小テスト等は添削して返却する。参加者の多くに間違いが見られた問題に関しては、再度解説を行う。

**評価の基準**  
 授業中の理解達成度（20％）、小テスト等（20％）、中間の理解度確認（20％）、期末の理解度確認（30％）  
 授業を5回以上欠席した学生については、成績評価の対象から外す。

**履修にあたっての注意・助言他**  
 毎回の授業で出席をとる。  
 授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。  
 日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ることを。

教科書	.使用しない。			

**プリント資料及び参考文献**  
 プリント資料等は必要に応じて配布する。文献は適宜指示する。

**授業計画**

第1回 授業の説明（授業の進め方、スケジュール、評価の方法、注意事項）  
 第2回 対象を形容や修飾でどうえ、それに対する印象を述べる表現を学ぶ  
 第3回 自らの行動の理由を述べる表現を学ぶ  
 第4回 二つの事柄を挙げ、その一方、または双方について評価する表現を学ぶ  
 第5回 自らの感情、感情がどの程度であるかと述べる表現を学ぶ  
 第6回 「ない」を二度用いた、一語肯定による曖昧さを含んだ意思表現を学ぶ  
 第7回 強い意思をもって自らの行動や相手への忠告を述べる表現を学ぶ  
 第8回 中間の理解度確認  
 第9回 ある行動から導かれた結果が良い場合、悪い場合のそれぞれの表現を学ぶ  
 第10回 複合動詞を用いて、その行動がどの段階まで進んでいるかを述べる表現を学ぶ  
 第11回 時間や場所の範囲を定め、ある物事がその範囲内のどこに位置するかを述べる表現を学ぶ  
 第12回 その結論に至った理由を強調する表現を学ぶ  
 第13回 ある状況を仮定して、その時に発生が予想される事柄を述べる表現を学ぶ  
 第14回 一方の状態の悪化に合わせて発生する、もう一方に見られる変化を述べる表現を学ぶ  
 第15回 期末の理解度確認

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**  
 当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の小テストに向けて準備をすること。学習内容の定着を図るため、発話練習や作文練習などを行うこと。（それぞれ120分程度）

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**  
 物事に自ら進んで取り組むことができるようになる。  
 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができるようになる。  
 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できるようになる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**